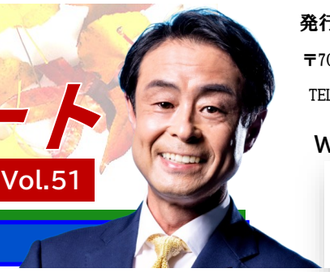
岡山県議会議員 高橋とおる
県政レポート
Vol.51



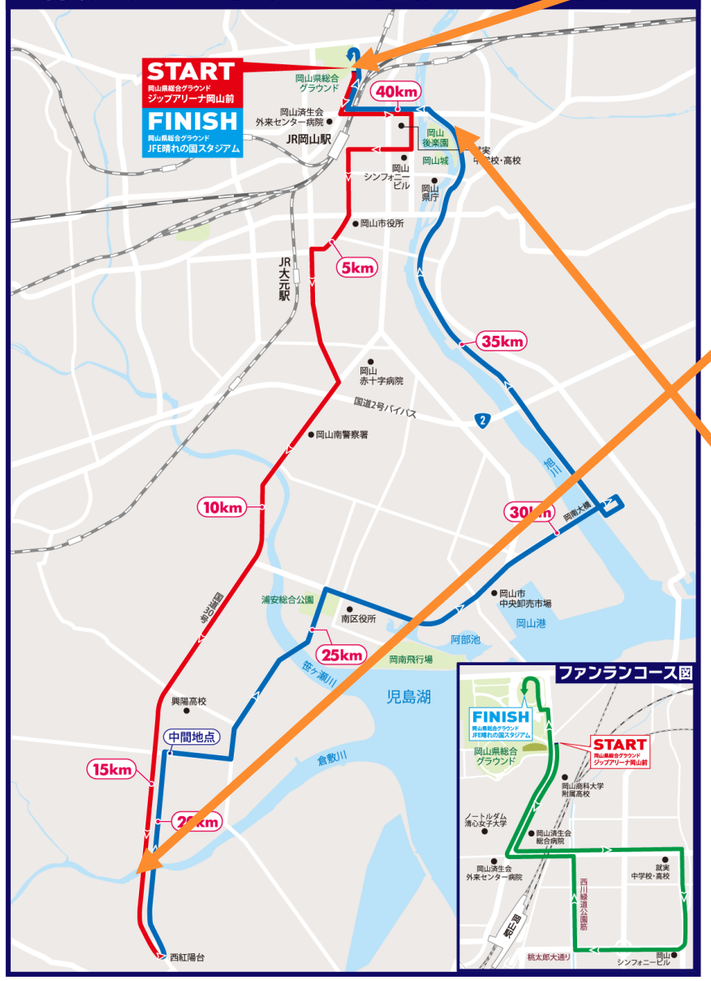
発行：高橋とおる事務所　発行日：2025年11月20日
〒703-8271 岡山市中区円山118　サンライズビル201
TEL (086)238-7775，FAX(086)238-7785
WEBページ　facebook

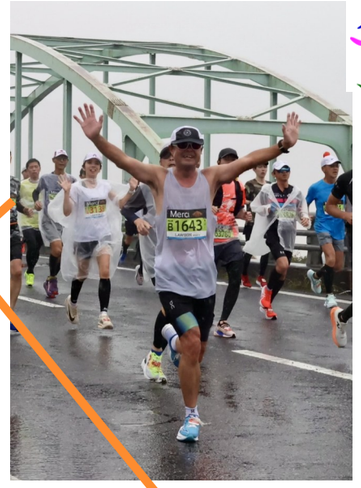
「おかやまマラソン2025」開催！

「おかやまマラソン2025」（岡山県、岡山市などの共催）は11月9日、県総合グラウンド一帯を発着点に開かれました。9回目となったレースはあいにくの雨。それでもフルマラソンとファンラン（5・6キロ）に県内外の計1万5915人が出場し、沿道に集まった市民らの熱い声援を受けながら晩秋の岡山路を駆け抜けました。

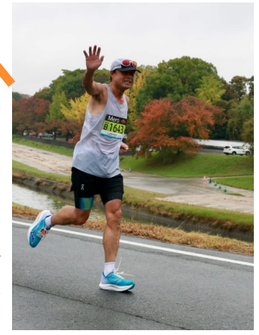
降りしきる雨の中、1万6千人のランナーが一斉にスタート

おかやまマラソン2025 コースマップ





17km地点。倉敷川橋を渡り、西紅陽台の折り返し地点へ。まだまだ元気で笑顔が見えます。



38km辺りの一番キツいところ。相生橋を通り過ぎ、旭川の土手を北上中。脚が動かず、ペースも落ち込んでいます。この辺りは、晴れていたらバックに岡山城が見える撮影スポット。

ゴール直後。フィニッシャータオルを掲げ記念撮影。

【大会を終えて】 今年もフルマラソンに出場し、完走しました。記録は3時間54分26秒（ネットタイム）。実はレース2週間前に脚を痛めてしまい、その間ほぼ走ることができず、当日は痛み止めを飲んで、テーピングで脚をガチガチに固めて出走したので、最初からタイムは諦めていました。それでも、最低限の目標にしていた4時間を何とか切れたので、よかったです。

数日前から天気予報は雨。「晴れの国の奇跡」を願っていましたが、祈りは天に届かず早朝から大粒の雨が降り続き、路面のあちこちに水溜りができるという厳しいコンディションになりました。そのような悪天候の中にあっても、大会関係者の皆さん、ボランティアの方々、そして沿道で声援を送り続けてくださった皆さんのお陰で、脚の痛みは限界に達していましたが最後まで頑張ることができました。長時間濡れ続け身体は冷え切っていたものの、心は温かく、気持ちのよい42.195kmでした。毎回、感謝の気持ちでいっぱいになる大会ですが、今年は例年以上にその思いを強くしました。おかやまマラソン、最高です！

岡山市長選挙　現職・大森雅夫氏が当選！

4期目がスタート！「ワクワクする岡山市をめざす」

岡山市長選は10月5日に投開票され、無所属・現職の大森雅夫氏（71）が4回目の当選を果たしました。投票率は36.66%で、前回34.01%を上回りました。

前回の市長選は前市議会議長との一騎打ち。自民や立憲民主は自主投票、市議たちも支持が割れるといった構図でしたが、今回は、自民、公明、立憲民主、国民民主が推薦。市議会議員46人中36人が選対に加わり強力に支援したほか、連合岡山など200を超える企業・団体から推薦を得るなど組織を固め、他候補を圧倒しました。

【選挙結果】

大森雅夫（71）（無所属・現）	89,183票
浦上雅彦（60）（無所属・新）	74,494票
神崎政人（37）（無所属・新）	27,780票
向谷千鳥（67）（無所属・新）	14,917票

【高橋とおるの視点】 選挙戦で、大森候補は、子ども医療費の助成拡充や待機児童解消、市の経済指標の好調さや財政指標の改善状況など、3期12年の実績をアピールするとともに、公設民営のバス運行、物価高騰への対応、歴史・文化・スポーツを活かしたまちづくりを進めると訴えました。印象深かったのは、「ワクワク感を感じられるまちづくり」という言葉を繰り返し使っていたことです。構想中の新アリーナはプロスポーツチームの施設整備にとどまらず、まちに「ワクワク」を作り出す、まちづくりに欠かせない装置だということを説明したかったのだろうと受け止めました。ただ、この事業には賛否があるのも事実です。これから事業を具体化する中で、市の財政負担がどのくらいになるのか、将来に渡り持続可能なスキームなのかなど、事業のコストやリスクについても十分説明したうえで、丁寧に合意形成を進めることが求められます。物価高騰で生活が苦しくなる中、選挙戦では減税や支援策を求める声も聞かれました。人口減少局面に入り、周辺部を含めて持続可能なまちづくりをどう進めるのかも問われます。山積する課題の解決に向け、大森市長の手腕に期待するとともに、私自身、岡山市選出の県議会議員の立場から協力を惜しまないつもりです。県と岡山市の関係を心配する声もよく耳にします。両者が未来志向で連携・協力できるよう、私も汗をかきたいと思います。

決算特別委員長として決算審査を主導！

【9月定例会で企業会計決算報告】

今年度、「決算特別委員会」の委員長を務めています。同委員会では、前年度の一般会計、特別会計等の決算状況に関する調査を行っています。10月か11月にかけては、ほぼ週1回のペースで委員会を開催し、一般会計、特別会計の決算状況について調査しています。12月中旬までに全ての部局の決算を認定し、11月定例会に報告する予定です。皆様からいただいた税金が何に使われたのか？ コストに見合う成果は出ているか？ 無駄はないか？ 使い残しの状況は？ など、様々な観点から県の事業を調査をする委員会では、毎回、侃々諤々の議論が繰り広げられています。委員長の責任は重大です。職責を全うすべく、適切に議事を進め、議論のとりまとめに全力で取り組んでいます。

岡山県議会 9月定例会報告

9月定例会で私の質問機会はありませんでした（会派持ち時間制なので、会派ごとの質問者数には制限があります）。今レポートでは、所属会派（民主・県民クラブ）の代表質問の質疑応答の一部を紹介致します。会派を代表し、柳田哲議員（倉敷市・都窪郡選挙区）が質問に立ちました。なお、次回定例会の会派代表質問は、私が登壇する予定です。

質問1. 地域における病床の確保について

【質問の背景】 本県の地域医療構想によると、R7年の必要病床数は、県全体で高度急性期2,249（※1）、急性期6,838（※2）、回復期6,480（※3）、慢性期4,607（※4）。昨年7月の報告によると、それぞれの病床充足率は、高度急性期169%、急性期119%と必要数を大幅に超過しているが、回復期は70%にとどまる。地域別病床数では、県南東部では高度急性期が充足率167%、急性期121%である一方、回復期は74%で4分の1が不足するなどの偏在が見られる。急性期中心の体制から回復期・在宅医療への移行が課題になっている。

質問 病床充足率を見ると、急性期中心の体制から回復期・在宅医療への移行が進んでいない。病床数に極端な偏在が見られる地域もある。地域医療構想に基づく病床機能再編の全体及び地域ごとの状況をどう評価しているのか。また、急性期・回復期・慢性期・在宅のバランスをどう適正化するのか。特に、回復期病床の確保には人材確保や施設整備等が不可欠だが、どう取り組むのか、併せて伺う。

柳田哲 議員

答弁 地域医療構想に基づく病床数は、区域や病床機能区分ごとの充足率に偏りがあるものの、全体としては、令和7年時点の必要量に近づいており、着実に取組が進んでいる。急性期、回復期などの病床機能区分ごとに必要な病床数の確保に向けては、医療機関における人材確保や施設整備等に係る検討が必要なことから、医療機関等で構成する区域別の地域医療構想調整会議において、地域の実情を踏まえた協議を行い、合意した取組に対しては、様々な財政支援を行っている。（知事）

（※1）高度急性期病床：24時間体制で呼吸や循環管理を必要とする患者さんに対して、高度な治療を行う病床。　（※2）急性期病床：病気を発症して間もない時期など患者の状態が急速に悪化する時期（急性期）に必要な医療を提供するための病床。　（※3）回復期病床：患者の自宅復帰に向け集中したリハビリテーション等を行う病床。（※4）慢性期病床：長期間の療養が必要な患者が入院する病棟。高齢者、重度障害者などが多いのが特徴。

質問2. 路面表示の維持・管理について

【質問の背景】 制限速度や「止まれ」の一時停止指示や横断歩道などの道路標示のペイントが剥がれている場所が散見されるが、地域住民からの要望通りに修繕が進んでいない。また、規制標識や指示標識は公安委員会（県警察）、警戒標識、案内標識は県や市町村などの道路管理者がそれぞれ設置・管理しているが、両者が連携・協力し、より効率的・スピーディーに住民からの要望等に対応できる仕組みづくりが求められている。

質問 国・県・公安委員会が連携して対策期間を設定し、路面標示の集中対策を実施してはどうか。まずは県警察が所管する停止線や横断歩道等の規制標示を優先的に修繕しながら、その周辺道路の路面標示の修繕を一体的に実施してはどうか。知事及び警察本部長に伺う。

答弁 道路管理者が管理する区画線と、県警察が管理する道路標示は、一体となって安全で円滑な道路交通の確保を担うものであり、連携して対策を行うことが重要だ。そのため、今年8月に、国、県、岡山市と県警察が参加する連絡調整会議が開催されるなど、関係機関の連携体制が構築されたところであり、お話の集中対策も含め、適切な区画線の維持補修の進め方について検討する。区画線と道路標示は、必ずしもどちらかを優先的に修繕すべきとは考えていないが、連絡調整会議も活用しながら、現地の状況等に応じた効果的・効率的な対策を進めたい。（知事）

答弁 県警察の管理に係る路面標示の補修については、必要性・緊急性の高い箇所から順次行っており、効率的な予算執行の観点から、一定数の不良箇所を地域ごとにまとめて工事の発注を行うことで、より多くの補修ができるように努めている。効率的・効果的な維持管理に向けて、本年8月に国、県等の道路管理者と「第1回連絡調整会議」を開催し、標示の点検技術の共有等について意見交換を行った。こうした会議等を通じて、路面標示の補修を行う際には、道路管理者と県警察の施工の場所や時期を合わせるなど、より一体的な取組を行うことや、不良箇所の集中的な補修についての対策期間を設けることについても検討を行い、道路標示の適切な維持管理に努めていく。（県警本部長）

髙橋とおる 活動報告

議会閉会中は、県の事業が行われている現場に赴いたり、他県の先進事例等を調査したりする「視察」を積極的に行い、見聞を深めています。セミナーを受講したり、専門家にヒアリングをすることもあります。そうやって、政策への理解を深め、議会での質問や提案に繋げています。地域を歩き、街頭に立つ活動も重要です。地域でいただく様々な声の中から、課題解決のヒントが見つかることは珍しくありません。以下、私の活動の一端（ごく一部ですが）を、ご紹介致します。

視察・調査活動

所属会派メンバーと鏡野町「人形峠環境技術センター」を視察。同センターはウランと環境研究プラットフォーム構想に基づき、我が国で初めてとなる大型核燃料施設の廃止措置の先駆者として、安全を最優先に研究開発を進めている。

奈義町「なぎチャイルドホーム」は、全国トップクラスの出生率を誇る奈義町の子育て支援施設。岸田首相（当時）が視察に訪れたことも。

決算特別委員会で、静岡県清水市の「IAIスタジアム日本平」を視察。同施設はサッカーJリーグの清水エスパルスの本拠地で、サッカーのまち静岡のシンボルとして市民に親しまれている。　静岡市が所有し、指定管理者が運営。供用開始から30年が経過し老朽化が進んでいることに加え、屋根のカバー率がJ1の基準を満たしていないことなどから、現在、同市では、新スタジアムの建設を検討中。JR清水駅に隣接する製油所跡地を最有力候補地に選定し、災害時の対応やコスト面の検証などを精力的に行っている。

決算特別委員会で2023年に開業した宇都宮ライトレールを視察。国内の路面電車路線としては富山県の万葉線以来75年ぶりの新規開業。開業からの累計利用者数は2年で1,000万人を突破。当初計画より6カ月早い大台到達となった。沿線地域には住宅着工が増えるなど流入人口が増加。公園整備や商業施設など新たな投資も進んでいる。公共交通整備による地方都市のまちづくりの好事例。今後、さらに路線延伸が進む。

街頭活動

毎週金曜日の朝に行っている定例街宣。

最新の県政のトピックスや、いま議会でどのような議論が行われているか等についてお伝えするため、原則、毎週、金曜日の朝に旭川に架かる橋の上や手沓名交差点などで街頭演説を行っています。通勤途中にお声をかけていただいたり、車で通過する際、手を振っていただいたりすると、とても励みになります。また、11月16日には、所属する国民民主党の玉木雄一郎代表の来岡に合わせ、岡山駅前で街頭演説会を開催しました。いわゆる「辻立ち」は、政治家としての原点の活動だと思っています。今後もずっと大事にしたいです。

国民民主党・玉木雄一郎代表などと一緒に岡山駅西口で街頭演説会を実施。